

★学校教育目標		○自ら学び考え行動しよう ○責任と思いやりの心をもとう ○健全な心と体をつくろう		★重点計画の概要	
★目指す学校像（ビジョン）				全ての生徒が「七生中生で良かった」と思えるために、 ・生命尊重、人権教育、いじめの根絶、体力向上に取り組む ・「分かる授業」づくりを進め、確かな学力の育成と主体的な学びを育む。 ・地域と学校が双方向で連携を深めながら、次代を担う日野市民を育てる。 ・生徒にとって安心、安全な学校づくりを推進する。 ・ひとりひとりの生徒に合った特別支援教育の一層の充実を図る。	
【めざす児童・生徒像】		①確かな学力を基盤に、将来の夢に向かって主体的に学び向上する生徒		②礼儀正しく、真面目さや正義を大切にする生徒	
【めざす学校像】		①生徒の健康・安全を提供できる学校		②確かな学力と社会性が身に付く学校	
【めざす教師像】		①生徒理解に優れ、愛情と情熱をもって向き合う教職員		②教育の専門家として、確かな指導力をもつ教職員	

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策	
				評価点	取組指標	評価点	成果指標			
いのち	■すべての「いのち」を守り、育むために かかわりの中で生命の尊さや生きる喜びを実感し、よりよく生きようとする態度を育成する。 21世紀を切り開く担い手として、ものごとをやり抜く強い意志と体力を身に付けさせる。	・人権尊重の視点に立った体験的活動の充実を図るとともに、研修等を通じて道徳科授業の質を向上させ、生徒の自尊感情を高めていく。 ・いじめ問題への継続的な取り組みにより、未然防止と早期発見に努める。 ・たくましく生きるための健康づくりと体力・運動能力の向上を図る。	・総合的な学習の時間の学校全体テーマを「生きる」に設定し、防災や福祉、職業などの体験的な活動を取り入れる。さらに、命を守る視点で防災教育を実施する。 ・道徳科の授業では、生徒が生命尊重をはじめとする道徳性を養うために、考え・議論する授業実践を充実させる。また、外部講師を招いた道徳科授業の研究授業を年間3回実施する。 ・未来につなぐ創造力プロジェクトやいのちのプロジェクトの取組について、全校生徒が関わりをもてるよう、代表生徒が中心となって活動していく。 ・「七生中学校いじめ防止基本方針」に基づき、定期的なアンケート実施や、生徒の様子について情報を共有することで、いじめ予防と発生時の迅速な対応を組織的に行う。 ・生徒の健康状態や運動能力の実態把握をするため、体力、運動能力調査や各種検診の結果、生活実態調査等のデータを総合して分析する。その上で、授業や学校行事、部活動を通して計画的に改善を図っていく。	4 全ての教員が、ねらいを理解し、実践した。	1	3 90%以上の教員が、ねらいを理解し、実践した。	3	4 保護者のアンケートで、90%以上が「生命尊重や人権尊重の考え方に基づく道徳教育が充実している」と回答した	・今年度は学校生活の最後がコロナウィルスの影響ですっぱり抜けてしまい、生徒にとっても先生にとっても、見通しの立たない、成就感が感じられない時期となってしまったのが残念です。 ・来年度は新しい学年になりますが、日常の生活を取り戻し、活気ある学校生活を取り戻して下さい。	・保護者アンケートでは87.4%が肯定的な回答をしている。一方教員の取組指標によると肯定的な回答は75%にとどまっており、不登校生徒や自尊感情の低い生徒がいる現状に対するの評価と考えられる。人権尊重教育については、道徳の授業をはじめ、引き続き全ての教育活動を通して指導、生徒の人権意識を高め、お互いを尊重する心と態度を育てていく。
				2 80%以上の教員が、ねらいを理解し、実践した。		2 保護者のアンケートで、85%以上が「生命尊重や人権尊重の考え方に基づく道徳教育が充実している」と回答した		1 保護者のアンケートで「生命尊重や人権尊重の考え方に基づく道徳教育が充実している」と回答した保護者が80%未満		
学び	■一人一人を大切にしたら多様な学びのために 「分かる」授業づくりを推進する。 主体的に学ぶ力の向上を図る。 自ら課題を発見し、考え、判断し、よりよく解決するための確かな学力を育成する。	・個に応じた指導の充実により、ひとりひとりの可能性を引き出す授業づくり。 ・かかわりの中で自分たちで考え、語り合いながら知恵を出し合える形態の学習活動。 ・ICTを効果的に活用した教育活動の推進。	・各種学力調査の結果や授業アンケート等を分析し、授業創造プランを作成し、小中連携教育を生かしながら、より良い授業づくりを実践していく。 ・授業のユニバーサルデザイン化を進めるとともに、日野市中教研や部の研修等を活用し、授業力の向上に生かす。 ・英語と数学で少人数授業を実施し、個に応じた指導の充実を図る。 ・試験前や放課後、夏季休業中などの補習や学習教室を実施し、個に応じた指導によって学習内容の定着を図る。 ・生徒に身に付けさせたい力を明確にし、日野市スタンダードを基盤として、生徒が自ら課題を解決する活動を支援する授業形態を創っていく。 ・ICTの活用した教材開発によって、生徒の学習意欲の向上を図る。また、デジタル教科書を積極的に活用することで、生徒の関心・意欲を高めるとともに、習熟に応じた指導の工夫を図る。	4 全ての教員が、計画的、組織的に取り組みを行い、成果を確認できている。	1	3 90%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行い、成果を確認できている。	2	4 保護者のアンケートで、90%以上が「基礎・基本を重視したわかりやすい授業が行われている」と回答した	・新学習指導要領が始まると聞いています。生徒にとって一番大切だと思うのは「授業」だと思います。生徒にとって「良い授業とは何か」を常に追求して下さい。	・保護者アンケートでは肯定的な回答が82.3%、教員の取組指標では70%にとどまっている。新学習指導要領の実施に向けて、教員の授業形態を生徒一人一人のニーズに合った多様な学びにしていく上で、これからの一層の研修によって、「生徒の主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善」を推進していく。
				2 80%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行い、成果を確認できている。		2 保護者のアンケートで、80%以上が「基礎・基本を重視したわかりやすい授業が行われている」と回答した		1 保護者のアンケートで「基礎・基本を重視したわかりやすい授業が行われている」と回答した保護者が80%未満		
地域	■「地域をステージとした学び」を推進するために 「地域」を知り、「地域」にかかわりを持ち、「地域」に貢献する生徒を育成する。	・地域や関係機関と連携し、課題発見能力や情報分析力、課題解決力の育成を図る。 ・体験活動を通じて、地域貢献力の向上を図る。 ・地域防災に貢献できる資質や能力を育成する。	・日野市内のフィールドワークを通して、日野の歴史や文化、環境などに関する調べ学習を行い、地域に関する理解を深める。 ・育成会やPTA、親父会などと、七生中に密接に関連した諸団体をはじめ、日野市役所や地域の様々な事業所や団体と連携し、フィールドワーク、職場体験、地域人材による授業などの学習を行う。 ・地域懇談会やいのちのわ等、地域や関係機関が主催する行事に対して、生徒会が核となり、多くの生徒が積極的に参加できるように環境を整えていく。 ・避難訓練や安全指導、救急救命講習、セーフティ教室等、防災・安全教育の充実を図り、災害発生時に自他の生命を守る行動力のある生徒を育成する。 ・防災キャンプや引き取り訓練等を通して地域や家庭と連携し、災害発生時の中学生の安全確保と、支援活動における中学生の役割についての理解を深める。	4 全ての教員が、計画的、組織的に取り組みを行い、成果を確認できている。	1	3 90%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行い、成果を確認できている。	2	4 生徒のアンケートで、95%以上が「校外学習や地域の人から学ぶ機会があった」と回答した	・生徒が実際に地域に出て行って体験を通して学ぶことはとても貴重なことだと思います。 ・地域の一員としては、中学生にちょっと地域に出てきてもらいたいという希望はあります。中学生が参加してくれた地域行事はとても活気が出ます。地域の人たちが元気になります。	・生徒アンケートでは肯定的な回答が、昨年に比べて90%を下回ったが、年間を通して数多くの取組に関して、地域の方々のご協力をいただきながら学ぶ場を設定し、生徒自身が主体的に取り組んだ成果が表れていると捉えている。教員の取組指標は60%と低く、地域との関わりに対する取組が課題である。
				2 80%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行い、成果を確認できている。		2 生徒のアンケートで、85%以上が「校外学習や地域の人から学ぶ機会があった」と回答した		1 生徒のアンケートで、「校外学習や地域の人から学ぶ機会があった」と回答した生徒が85%未満		
安全	生徒が安心して安全な生活ができる学校をつくる。	・基本的な生活習慣の確立と規範意識の更なる向上を図る。 ・自他の生命を尊重する態度を育成する。	・生徒が「あいさつとマナーの七生中」というスローガンを常に意識して生活できることを目標に、上級生が下級生のモデルとなれるよう、段階的、計画的な指導を行う。 ・全ての教員が生活指導基本方針を共通理解し、一貫性をもって指導を行う。 ・「いのち」領域の取組に加えて、情報モラル教育、SOSの出し方教育を継続的に行う。	4 全ての教員が、計画的、組織的に取り組みを行い、成果を確認できている。	3	3 90%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行い、成果を確認できている。	3	4 保護者のアンケートで、95%以上が「規範意識を育てる教育が行われている」と回答した	・挨拶はコミュニケーションの基本です。よい人間関係を築くことが楽しい学校生活に繋がると思っていますので、これからも取組を充実させていってください。	・保護者アンケートでは91.3%、教員の取組指標は90%が肯定的な回答であった。生徒は「あいさつとマナーの七生中」というスローガンを大切にし、上級生が下級生のモデルとして手本を示すことができている。挨拶とマナーを通して、心を育てる指導を継続していく。
				2 80%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行い、成果を確認できている。		2 保護者のアンケートで、85%以上が「規範意識を育てる教育が行われている」と回答した		1 保護者のアンケートで、「規範意識を育てる教育が行われている」と回答した保護者が85%未満		
支援	支援が必要な生徒に対して、適切な支援を提供できる特別支援教育の充実を図る。	・発達支援の観点に立ち、生徒の実態を十分に把握し、個に応じた特別支援教育を推進する。 ・不登校傾向の生徒と、その保護者への支援の充実を図る。	・校内委員会を活用し、情報共有と効果的な教育活動を整理し、実践していく。 ・ステップ教室、リソースルームの充実により、生徒の意欲と自己肯定感を高めていく。 ・生徒の実態に応じて、家庭訪問や放課後登校等、望ましい対応を組織的に実践していく。コーディネーターが中心となり、SCやSSW、関係機関等と連携して支援していく。	4 全ての教員が、計画的、組織的に取り組みを行い、成果を確認できている。	2	3 90%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行い、成果を確認できている。	3	4 保護者のアンケートで、90%以上が「生徒や保護者からの相談に対し、誠実に対応している」と回答した	・生徒一人に対して校内支援委員会や専門家も交えて支援方法を検討しているとのこと。今後ますます支援が必要な生徒は増えていくと見られます。大変ですが丁寧な対応をお願いします。	・保護者アンケートで肯定的な評価は85.9%、教員の取組指標では80%であった。支援が必要な生徒に対して、個に応じた適切な支援が提供できるように校内支援委員会、学年会を通して、情報共有に終わらせず、心理士やスクールカウンセラー、医療機関へと進めることができたことは成果である。困ったときに、自ら支援を求められるようSOSの出し方教育を更に充実させていく。
				2 80%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行い、成果を確認できている。		2 保護者のアンケートで、70%以上が「生徒や保護者からの相談に対し、誠実に対応している」と回答した		1 保護者のアンケートで、「生徒や保護者からの相談に対し、誠実に対応している」と回答した保護者が70%未満		

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。